

原発事故被害者 相双の会

連絡先

國分富夫(会長)

住所

〒965-0013 会津若松市堤町6-12

電話 090(2364)3613

メール

kokubunpi-su@hotmail.co.jp

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江)

関根憲一 090-4889-3726(富岡)

板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)

慰謝料・避難指示による分断は許せない —被害者はみな仲間—

自民党は5月21日に、①居住制限区域と避難指示解除準備区域(計約56,000人)への避難指示解除を17年3月までにする、②両地域住民(避難中)への月10万円の慰謝料を18年3月に打ち切るよう、政府に求めることを決めた。また福島県は、「自主」避難者(約3万人)の借上げ住宅家賃負担を17年3月末で打ち切る方向で検討している。

そこには避難者の事情を全く抜きにした一方的なやり方と、狡猾な住民への分断の意図がうかがえる。

勝手に決めてはならないこと

第1に避難指示の解除は、現地の実態・実情によって可能になるものであって、政府・東電の決する事柄ではない。自民党の号令で文句一つ言わせないやり方だ。

避難者は全てを奪われ、放射能と向き合いながら不安を抱えて生活してきた。科学的根拠を示されず「安全、安全」の宣伝だけで帰還を促されてきた。原発を建設するとき「事故は絶対に起きませ

ん安全です」と言われたことを思い出す。

事故から4年が過ぎ放射能でもっとも危険なセシウム137(半減期30年)が残っている。最近、避難者が口々に「除染しても線量は減っていない」と言っている。私も除染した後に計ってみたが前と変わりなかった。上がっている所さえあった。

政府-自民党は何を根拠に17年3月で安全になるというのか! 「帰還困難区域」を含む三つの地域への線引き自体いがかげんだった。裏山は立ち入りもできない高線量でも一定の条件なら住めるといわれた。それでも「帰還困難区域」の周りには、いわば緩衝区域があった。ところが緩衝区域をすべて取り払う。数センチ先は「帰還困難区域」でも生活できるというのだろうか。

「被爆はこれで安全」という値はない。低線量による被害はまだまだ分からない事が多くあると思われる。これで安全という科学的な根拠ないかぎり安心とは言えない。子どもたちを守るのは今に生きる私たちの責任です。

慰謝料の一律打ち切りと分断

第2に18年3月に賠償を一律に打ち切るのはおかしい。何よりも住民分断の意図が丸見えだ。避難解除後わずか1年間で慰謝料を打ち切る従来の国・東電の方針には、解除準備に入った地域からは強い不満がだされていた。兵糧を断って帰還を強制するようなものだからだ。これを慰撫するように、今年解除しても18年3月までは慰謝料は延長するという。しかし、17年3月以降の解除を想定する地域は、1年未満で打ち切られる。だいたい月10万円という自動車事故と同額の賠償で、一家離散、故郷喪失、失業の苦しみを味あわされ、政府発表ですら、原発関連死が今なお増え続け、3月で1,232人という実態を、どう償おうというのか、それをはした金で済ませ、そのうえ住民を分断する姿勢を許せる分けがないだろう。

「自主」避難者への差別は全体の問題

第3に、福島県まで分断に手をそめていく。『福島民友』によれば県は約3万

人にのぼる「自主」避難者の借上げ家賃負担の延長を17年3月までとするよう、市町村に打診したという。今のところ避難指示対象者の仮設住宅や借上げ住宅の廃止の動きはない。しかしその生活も限界なことは、再三訴えてきた。被災者は全ての財産を失い立ち上がれないにも関わらず、復興住宅の建設の遅れと共に生活再建のための賠償が100%でないため、4年2ヶ月が過ぎた今でも仮設住宅から抜け出る事もできず、先行き不安のままの生活が続いている。

しかし、「自主」避難者だから打ち切られてもやむをえないなどと考えると、次は仮設や借上げにいる避難者全体に、「税金泥棒」といったヘイト・スピーチや冷たい眼がむけられるだろう。

原発事故により被害を受けたものは全て同じです。勝手な線引きで賠償が異なる事はあってはならない。国のこういう手法が正されない限り、原発再稼働は強行され、第2第3の事故がひきおこされるだろう。

長野県松本市・菅谷昭市長の警告

長野県松本市の菅谷（すげのや）昭市長は、外科医として1996年から約5年半、ベラルーシに長期滞在し、チェルノブイリ原発事故後に多発した小児甲状腺がんの治療にあたるなど医療支援を続けた人だ。菅谷さんは、その経験からこう述べている。

「私はがんではない健康被害に注意する必要があると感じている。がん以外の健康問題は免疫力の低下や貧血傾向などの症例があるという事実のみで、その原因が汚染だと科学的に証明はできない。ただ甲状腺がんは少なくなったし検査をして早く見つければ治療できる。しかし軽度汚染地に住んでいて事故から10年以上たって生まれてきた子どもに何らかの問題が出ているのだとすれば、低いレベルであっても継続的な被ばくがもたらす影響を疑う必要がある。このことは福島原発の対策においても参考になるはずだ」。

全線開通した常磐道を走って

常磐道が全線開通してからはじめて車を飛ばしました。高速道路は一段と高いところを通りますから荒れ果てた家屋、田畑がよく見えます。原発事故の結果は広大な国土は生き物をうけつけません。そして二度と足の踏み入れられない故郷となってしまいました。

いくら高速道路であっても、そんな所に子どもまで進入させて良いのでしょうか？ これで復興が促進すると喜んでいる事に疑問があります。

南相馬鹿島区にS A（せでっい）に寄ってきましたが、そこにはこんな詩がありました。

母の日

あそこもここも仮設住宅は
カーネーションでいっぱいだ
バラバラになってしまった家
族
遠く離れた子ども達から
贈られてきたのだろうか
ラッピングもメッセージも
もったいなさそうにそのまま
だ
震災の年 母の日は体育館の
避難所で母の日を感じる
こともなかった
二年目の母の日は仮設住宅に
いたのだが
カーネーションに気づかなか
った
三年目の母の日がきて少し落
ち着きを取り戻したのか
ようやく母を想いボクはいく
つになってもマザコンで七十
近く今になっても母の温もり
を恋しがります
何一つ親孝らしいこともしな
いうちに亡くなりましたがボ
クの唯一の親孝行は長生きす
ることだと思っています

藤の花

誰も居ない街で信号機が赤に
変わる 青に変わるまで待つ
車は一台も通る訳もなく
何をしているんだろうと不思
議な感覚になる 次の信号で
また赤で止まる
こんな所が本当に人の住む街
になるのだろうかと思いつつ
小高区の自宅へ向かう
留守番を仰せつかったピンク
の藤は主もなしに手入れもな
しに見事に咲いて私を待つて
いた いつもなら通りすがり
の車がときどき止まって得意
げに「いい日になりました」
と声をかけたりしていた
見上げた藤の花も誇らしげだ
った
そんな日がまた来るだろうか
隣の家は取り壊してすでにな
い私はどうしたらいいのだろ
う
まだ決められない



千葉なのはな生協

「決して福島を忘れない」研修会アンケートから

千葉県なのはな生活協同組合役員研修が磐梯熱海で2月21日～22日に開催されました。

バス一台で若い役員ばかりでとても元気で福島の現状を学ぼうと意気込んできました。

若い方ばかりですから吸収力が早く、アンケートで報告されているように今後は原発事故が風化させてはならない、日本の平和を守るため頑張りますの「声」を多く聞きました。

アンケートはホンの一部です。

「農業をやりたくても出来ない」という言葉がすごく印象に残りました。また内部被爆を気にしているお子さんをお持ちのお母さんが、地元の農産物を気にしているのが福島県の現状だと理解出来ました。

原発はひとたび事故が起これば多くの命を脅かし、平穏な生活を奪います。そして大量の被爆を余儀なくされ、廃棄物は10万年もの間、安全に隔離しなければなりません。

たった数十年のつけが途方もない時間をかけて払わなければならない。今回、研究者、生産者、そこで生活している子どもたち、そして避難生活された方と、多方面からのお話を聞くことで、改めて原発の影響の大きさ、恐ろしさを実感しました。研修会を終えて心にぽっかりと穴

が空いた気分になりました。この感覚は4年前の東日本大震災の時に感じたあの感覚でした。良くないことですが、4年経って少し良くなった。変わったなどと思いついていたことに自分の中で風化していたのだと思い知らされました。当初はチェルノブイリよりはマシだなと思っていましたが、とんでもない思い違いがありました。

日本が世界に原発の輸出をしていることに異常を感じました。これから僕たちに何が出来るのか、研修会で学んだ事をどう発信していけるかを改めて考えて行動して行きたいと思いました。

未来のある日本、素晴らしい日本になってほしいと思います。お話を聞いてショックを受けましたが、子どもたちには良い日本で成長して頂きたいと思いますので、ボクもこれから頑張っていきたいです。



「相双の会」 会報にご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。

匿名でもけっこうです。

電話 090 (2364) 3613 メール (國分)

kokubunpi-su@hotmail.co.jp